

平成24年度 Q I の設定と改善のための活動報告

②

部署名	感染制御チーム (ICT)	代表者	白野倫徳
-----	---------------	-----	------

1. 設定した指標

- ・ MRSA新規検出数
- ・ 緑膿菌の薬剤感受性率
- ・ 血液培養2セット率
- ・ 血液培養提出件数

2. 指標の説明

【MRSA新規検出数】

MRSAの増加の背景には、職員の手指衛生の不徹底、抗菌薬の不適切使用などがある。ICTで普段実施している職員研修や病棟ラウンドの効果を図るため、MRSA新規検出数を指標に用いた。年間200例以下が目標。

【緑膿菌の薬剤感受性率】

カルバペネム系などの広域抗菌薬の使用を抑えることで、緑膿菌の薬剤感受性率を回復させ、治療の選択肢を広げる。カルバペネム系であるIPMで、90%以上が目標。

【血液培養2セット率】

抗菌薬投与前に適切な検査が行われているかの指標となる。成人のみで50%以上が目標。

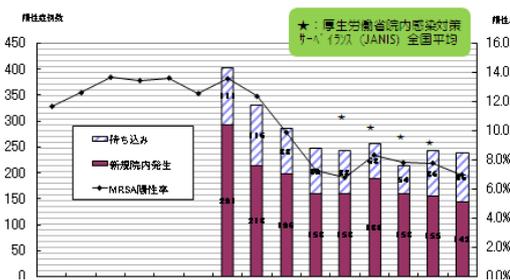
【血液培養提出件数】

抗菌薬投与前に適切な検査が行われているかの指標となる。1,000患者・日あたりの血液培養検査数20以上が目標。

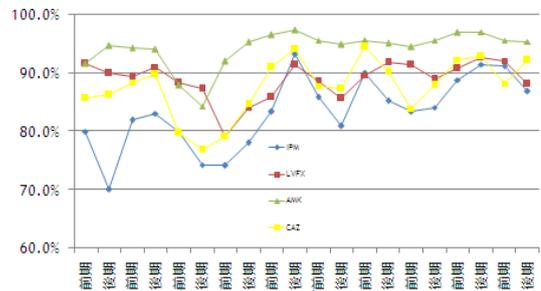
3. これまでの指標データ

血液培養2セット率（2012年後半）：55.8%

入院患者における
MRSA陽性症例数と陽性率の推移



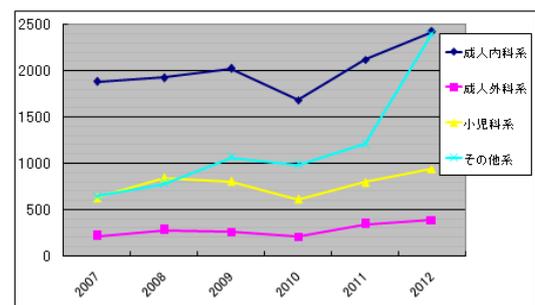
緑膿菌の感受性率



血液培養検査実施状況

年	のべ入院患者数 (人/年)	血液培養検査 (件/年)	1000患者・日あたりの血液培養検査数
2007年	353,248	3,364	9.52
2008年	336,891	3,816	11.33
2009年	320,708	4,137	12.90
2010年	308,802	3,485	11.29
2011年	306,494	4,523	14.76
2012年	310,350	6,217	20.03

診療科系統別血液培養実施件数の推移



○ 分母・分子、除外データ、データ抽出元など

感染制御チーム及び微生物検査室データベースより

- ・血液培養2セット率=同一日に2セット採取している件数/全血液培養件数
- ・MRSA陽性率=培養でのMRSA検出数/全培養検査提出件数(同一患者で複数回検出されている場合は1回とする)
- ・緑膿菌の感受性率=各種薬剤に感受性の菌株数/全菌株数(同一患者で複数回検出されている場合は、初回検出株のデータ)

4. 評価及び指標改善に向けて行った活動など

1. 耐性菌の監視
2. サーベイランス (感染率の監視)
3. 抗菌薬の届出制、許可制
4. TDM (Therapeutic Drug Monitoring)
5. 抗菌薬適正使用ラウンド
6. 血液培養陽性者ラウンド
7. アウトブレイク時の対応
8. 環境監査ラウンド
9. 院内感染防止マニュアルの作成・改訂
10. 職員への研修
11. 感染症診療・感染対策についての職員からの相談

上記を軸に活動してきた。経年変化でMRSAの新規検出数、緑膿菌の感受性や血培件数は増加してきており、効果を上げている。